（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（松本地域）

令和６年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	松本の中心市街地にありがとうの輪を広げるプロジェクト
事業主体 （連絡先）	松本ありがとうプロジェクト
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,298,955 円（うち支援金：4,724,000 円）

事 業 内 容

松本駅前地区における来訪者歓迎及び経済の活性化、松本の文化継承、松本の特産品の紹介、人と人との間にありがとうの輪を広げる事業として
①８月の青いＴシャツキャンペーン
②１月のプロジェクショングラフィック
③１月のつながるーむ
④２月のフラワーバレンタイン
上記４つのイベントを企画し、松本駅前お城口広場を中心とした駅前地域で実施。

（活動写

【プロジェクショングラフィックの様子】

【目標・ねらい】

①松本駅前を中心とした賑わいの創出
②松本地域の伝統文化の継承
③人と人を結びつけありがとうの輪を広げる
④松本の特産品を使用した他業種との協働

事 業 効 果

①青いTシャツキャンペーンでは、地元のダンスチームが駅前でイベントを盛り上げ、通行者にTシャツを配布しながら告知を行った。駅前通りにフラッグを掲げ、観光客を迎える雰囲気を創出した。Tシャツ配布数300枚、駅前イベント参加者約600名
②プロジェクショングラフィックは冬の松本駅前に彩りを加え、多くの人が自身の映像を投影する仕掛けを楽しんだ。エクセラン高校美術コースの生徒がイラストを制作し、若い世代の参加を促したが、インバウンド客は昨年度より少ない印象だった。クロマキー参加者6日間で213名
③つながるーむでは、松本地域の伝統行事や昔の遊びを子どもたちに伝えるイベントを開催し、多くの家族連れが参加。見るだけでなく、作る体験もできた。イベント参加者6日間で175名
④フラワーバレンタインでは、松本市の特産ラナンキュラスを配布。生産者からの直接仕入れは難しかったが、卸業者や小売業者を介して間接的に生産者を応援できた。エクセラン高校ボランティア部が協力し、通行人に花を渡した。花配布数300本

※自己評価【　A　】

【理由】
駅前において３年目を迎える事業ということで認知も深まってきたことを実感している。また、高校生、大学生、他業種との連携も実現でき、活動の広がりを生み出すことができた。

今後の取り組み

Ｔシャツキャンペーンにおいて配布スタッフとして松本短期大学の学生のみなさんがボランティアとして活動していただいた。また、プロジェクショングラフィック事業及びフラワーバレンタイン事業ではエクセラン高等学校の生徒との協働が実現できた。フラワーバレンタイン事業においては、松本の花卉業者との間接的ではあるが協働が実現でき、事業の輪が確実に広がっていることを実感している。今後は、より広域な連携を実現できる新たな取り組みを企画していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある